

〈大飯原発の運転再開を許すな〉

ご近所のみなさん。日本共産党です。これよりご当地におきまして、福井県大飯(おおい)原発の運転再開問題に対する日本共産党の考えについてお話させていただきます。しばらくの間、ご協力をお願い致します。

みなさん。民主党の野田内閣は、関西電力・大飯(おおい)原発三、四号機の運転再開を決定しようとしています。

東京電力福島原発事故の原因が未だ究明されず、安全対策や万一の場合の避難計画なども十分確立されていないなかで、運転再開を決断するのは、まさに無謀きわまりないことではないでしょうか。

いま国内にある五十基の原子力発電所は、すべて定期点検や故障で運転を停止しています。運転を再開できない最大の理由は、昨年の福島原発事故で安全に運転できる保障がないことが明らかになったからです。重大事故を起こした福島原発は、事故から一年以上もたっているのに、未だに原子炉内部の様子さえ分からず、放射性物質流出の危険が続いています。事故の収束のめどが立たないために福島を離れる人も後を絶たず、自宅に帰れない避難者は十数万人にのぼっています。それなのに、政府はなぜ大飯(おおい)原発の再開を急ぐのでしょうか。

政府は先に、原発の運転再開にあつての「安全性」についての基準を示しましたが、その中身は昨年の事故後に指示した非常用電源の配置や、机の上で原発の耐震性などを検査する「耐性試験」(ストレステスト)の実施などです。大飯(おおい)原発の場合、事故の際、不可欠な免震(めんしん)事務棟の整備などは、すべて計画だけで後回しです。これではまったく安全の名に値(あた)いません。

大飯(おおい)原発など原発が立地する地元では、これまで原発交付金や電力会社からの寄付金を受け取り、地域経済が雇用や営業を原発に依存していたため、原発停止が長引くことへの不安があるといえます。しかし、生命と安全は、何ものにも代え難いものではないでしょうか。

原発停止は電力を大量に消費する都市部などへの影響が大きいとして、運転再開を促す意見もありますが、原発事故で失われるかもしれない住民の命や安全と電力需給(じゆきゆう)をてんびんにかけることはできません。

みなさん。野田内閣が原発の運転再開にこだわるのは、全国で運転する原発が一基もない状態を一日も早く解消し、これからも原発を電源の中心にすえていこうという電力会社や原発メーカー、財界などの意向に因應(いんおん)するためです。

しかし、福島原発事故を受けて、世界の流れは脱・原発へと大きく舵(かじ)をきっています。いま日本政府がなすべきことは、「原発ゼロ」への政治決断ではないでしょうか。

再生可能エネルギー、自然エネルギーの普及、低エネルギー社会への転換も、「原発ゼロ」への決断をしてこそ、本格的に取り組むことができます。

みなさん。大飯(おおい)原発の運転再開を許さず、国民的討論と合意に基づいて「原発ゼロ」の日本をつくるために、ともに力を合わせようではありませんか。

最後に、日本共産党が発行しております「しんぶん赤旗」のご購読を心からお願ひ申し上げます。ご当地での政策の訴えを終わらせていただきます。ご協力ありがとうございます。